

令和3(2021)年度「とちぎエコ通勤トライ」実施結果について

1 実施概要

(1) 趣旨

通勤時における渋滞緩和や地球温暖化防止、公共交通利活用意識の高揚及び公共交通の安全性の理解促進に資するため、県内の事業所等に通勤する職員、従業員等がエコ通勤に取り組む「とちぎエコ通勤トライ」を実施した。

(2) 主催

栃木県

(3) 実施期間

令和3(2021)年12月1日(水)～12月15日(水)

2 実施結果

(1) アンケート回答数

305件(令和2年度 563件)

期間中のエコ通勤取組結果の集計として、参加者各自がスマートフォン等から専用フォームにアクセスし、エコ通勤への取組結果を入力・送信することとした。

(2) エコ通勤率の変化

とちぎエコ通勤トライ期間中のエコ通勤率は60.0%となり、通常日に比べて10.2ポイント上昇した。

【エコ通勤率(※)】

区分	通常日(A)	とちぎエコ通勤 トライ期間(B)	増減(B)-(A)
令和3年度(a)	49.8%	60.0%	+10.2
令和2年度(b)	42.5%	51.5%	+9.0
増減 (a)-(b)	+7.3	+8.5	+1.2

※エコ通勤率：休日・出張・在宅勤務等を除く通勤手段合計のうち、マイカー(バイク含む)と公共交通、公共交通、自転車、徒歩、マイカー相乗りが占める割合

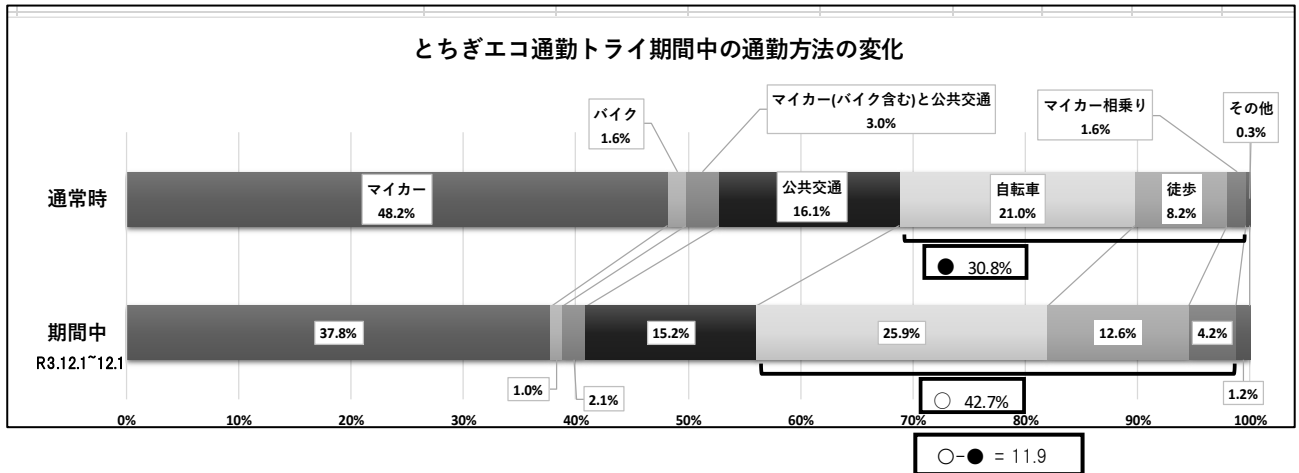
(3) プレゼント応募状況

アンケート回答者から、計230件のプレゼント抽選への応募があった。

希望景品	県内第三セクター 一鉄道セット	JR東日本+ 真岡鐵道セット	東武鐵道+ 野岩鐵道セット	栃木県バス協会 +わたらせ溪谷 鐵道セット	希望なし
応募件数	61	69	53	47	75

(4) 結果の分析

自転車、徒歩及びマイカー相乗りの割合が合計で11.9ポイント増加した一方で、公共交通を利用した割合は、令和2年度に引き続き、通常時と比べて大きな変化はみられなかった。これは、新型コロナウイルス感染症の感染者数が期間中は常に少ない水準で推移していたものの、公共交通の利用を避ける傾向がなお残っていたものと想定される。



3 今後の課題

期間中、エコ通勤率の向上が見られたほか、通常日においてもエコ通勤率は上昇しており、エコ通勤に関する一定の理解を得られていると考えられる。

一方で、エコ通勤へ転換した内訳をみると、公共交通への転換は減少しており、新型コロナウイルス感染症の影響が否めない結果となった。

今後も、エコ通勤実施者の増加、特に公共交通を利用した通勤への転換を促すため、その利便性や安全性について普及啓発を図っていくことで、更なるエコ通勤の推進に取り組んでいく。